

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内 1 丁目 3-30
TEL 088-821-2000
FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1084 2010 年 7 月号

ふれあい親子体験ツアー



「森と水とエネルギー」の開催

四国電力(株)高知支店とオイスカ高知県支局との共催で「森と水とエネルギー」について親子で体験しながら学びました。



親子で植樹体験



エネルギープラザ本川において発電体験



六月二二日、四国電力(株)高知支店及びオイスカ高知県支店との共催で、「ふれあい親子体験ツアー」を開催しました。

これは、六月の環境月間に合わせて、小学生と保護者を対象に「森と水とエネルギー」テーマに、森林の役割やエネルギーについて理解することを目的に行っているもので、今回で八回目を迎えました。

当日は、一般公募による二〇組、三九名の親子が参加しました。

はじめに、四国電力エネルギープラザ本川において、四国森林管理局の斎藤計画部長が、森と水そしてエネルギーについて見て聞いて体験してくださいと挨拶し、発電所の勉強をした後、地

下深くにある本川発電所の揚水発電施設を見学しました。

この見学では、普段見ることの出来ない発電所の設備の説明に、保護者の方々が興味深げに聞き入っていました。

次は、道の駅「木の香」(いの町桑瀬)の河原で、地元の漁協の指導を受けアメガの放流体験を行いました。子ども達は、初めての体験とあって大歓声を上げていました。

その後、稲村ダム(本川発電所の上池)周辺で植樹作業です。

今年度は、土佐町の「ふるさとの森を育む会」の協力により、夏ツバキの植樹を実施しました。

植栽場所は、もともとダム建設用道路の跡地で土壌が少ないため、予め同会の方が、植え付け穴と客土の

準備をし、子ども達は初めて使うクワに悪戦苦闘しながら、親子で協力して植樹をしました。

閉会は、四国電力の石井課長から、森を育て水を大切にエネルギーを大切に使うようお願いのあいさつがあり、全行程を終了しました。

今年は、天候にも恵まれ、子ども達には、思い出に残るツアーになったと思います。



アメガの放流



平成二二年六月一日高知県立高知農業高等学校の森林総合科二年生二五名を対象に、国有林野事業に関する講義を行いました。

本取組みは、平成一九年度から森林環境教育の一環として実施しているもので、森林総合科の生徒に、国有林野事業や林野行政に対する理解を深め、卒業後の進路等を考える上での参考にしてもらっています。

この講義では、森林管理局の業務に関する講話と入庁案内、最近の森林・林業の動向や四国森林管理局の事業内容等を紹介しました。現在のところ、四名が四国森林管理局等へ就職を希望して公務員試験を受験する予定と聞いていますが、

本講義により、更に受験したいという生徒が増えることを期待しています。



高知農業高校での講義の様子



平成二二年度国有林野事業職員定期表彰式を六月三〇日、高知城ホールで行いました。

表彰式では、篠田局長から受賞者の長年にわたる職務への努力と受賞者を支えてこられた家族の方への労いの言葉と「長年に亘り培

われた豊富な見識と経験を活かして、若手職員の指導とともに開かれた『国民の森林』に向けて、引き続き「ご尽力願いたい。」との、式辞があり、受賞者一人一人に表彰状が手渡され、代表して、局総務課の那須さんから、「本日の受賞を契機に初心に返り、新たな気持ちで業務に邁進することを誓います。」と答辞がありました。

永年勤続表彰受賞者
○一級精勤章（一八名）
局長 事 篠田幸昌
総務部 技 那須 悟
技 吉良崇夫
技 川村春喜
技 川本明夫
技 谷川口 智
技 芝 淳
技 田邊 宏
技 石田俊郎

技 竹倉昌直
技 竹内千幸
基 竹内 仁
技 中山修一
基 長野考児
技 刈谷 誠
技 窪田浩二
技 後藤哲也
技 米津誠喜
事 森田裕一
企画調整室
総務部 技 川井延幸
技 小川靖志
技 佐古明弘
技 川村倫代
技 西田哲也
技 川上亀男
技 朝比奈和弘
技 牛尾善博
技 川邊亜紀



【職員定期表彰】



各地のたより
「ボランティア編」

5・30（ミゼロ）に
関係機関等と連携し
不法投棄パトロール
〈香川森林管理事務所〉

五月三〇日、全国ごみ不法投棄監視ウィークに合わせ、高松市主催で、当所や関係行政機関、衛生組合協議会、警察等による不法投棄者調査パトロールが行

われました。

当所は、屋島国有林がある屋島地区を巡回し、不法投棄の監視やゴミの回収を行いました。屋島国有林は、

史跡・天然記念物や瀬戸内海国立公園に指定され、また、風景林にも指定しており貴重な国有財産ですが、悪質な不法投棄に悩まされています。当日も衣服類や紙類のほか、パチンコのスロット台等が捨てられており、モラルの低下が見受けられます。一方で、高松市や警察等と連携した撤去活動、摘発により年々不法投棄が減少しています。一般廃棄物の不法投棄した者については、五年以下の懲役若しくは一千万円以下の罰金、又はこの両方の罰則を受けることもあります（法人に対しては一億円以下の罰金）。

香川森林管理事務所では、

引き続き、パトロール・看板設置による未然防止等により不法投棄をなくすように保全管理を行っていきま



屋島国有林でのゴミ回収の様子

遭難者の捜査活動で
感謝状を授与
〈四万十森林管理署〉

本年の五月の山岳遭難者捜査活動において「迅速かつ的確な捜査活動を行い人命救出に寄与した」として六月一〇日、四万十森林管理署大正・下津井合同森林事務所職員一四名を代表して外山首席森林官が、窪

川警察署長から感謝状を頂きました。

これは、五月九日、四万十町大正の国有林城戸木森(しろどきもり標高約900m)で、高知市内の男性が一人で登り遭難したもので、地元消防署や警察署から連絡を受けた合同森林事務所は、施業実施計画図等の資料提供や現地での搜索活動に協力しました。

搜索が始まった一日は、小雨交じりの天候で視界も悪く足元も不安定な状況で搜索活動は難航しました。翌一日には署から六名・森林事務所についても、大正・下津井森林事務所(四名)に加え、窪川・中津川・構原森林事務所(二名)も搜索活動に参加して、朝七時から搜索を開始した結果、午前一〇時頃、城戸木森の山道で消防署員が行方不明者を発見し無事保護

されたものです。

今回の遭難を踏まえ、当署では、登山者が安心して山歩き等を楽しめるよう、登山ルートの確認や登山道周辺の標識類の整備・点検を実施しました。



感謝状を贈呈された大正・下津井合同森林事務所の職員



六月六日、西熊山国有林に設定されているふれあいの森「共に考えよう」部物の森」にてNPO法人「我

が家を見直す会」が募ったボランティア一〇名が保育間伐作業を行いました。

今回は、保育間伐作業初体験の参加者が半数を占めたため、当署基幹作業職員等の指導のもと、慎重に作業が進められました。当該地は林齢三六年生ヒノキで枝張りが大きいため、かかり木の処理に迫られました。間伐木が倒れ林内に光が差し込むと参加者からは「おっっ」という歓声が上がりました。

後日、「我が家を見直す会」の理事長である川合通子氏より「明るい山となったことを実感できて達成感抜群でした。疲れましたが楽しくでき嬉しかったです。管理署の皆様のお陰です。本当にありがとうございます。秋も頑張つて企画します。秋も頑張りましょう。よろしくお願いします。このお礼のメールが寄せられました。



保育間伐の様子



五月三〇日、三嶺山系において第三五回清掃登山(三嶺を守る会)主催が行われました。当日は、当署を含む九団体と一般の方を合わせて七三名の参加がありました。

参加者は、九コースに分かれて、シカの食害調査も行いながら、ゴミの回収にあたりました。当署が担当した葎生越の登山道では、ゴミがほとん

ど見当たらず、登山者のマナー向上を実感することができました。しかし、登山口の駐車場周辺で、古いゴミを回収した関係もあり、全体では昨年度より多い一二五kgの空ビンや空缶等が回収されました。

だけれど気持ちの良い登山ができるように、山にゴミを捨てないようにしてほしいと思います。毎年この時期に行われている清掃登山ですが、これが必要のない年が来ることを願ってやみません。



回収したゴミの仕分け作業

各地のたより
「森林環境教育編」

「風に飛ぶ種子」
〈ふれあいセンター〉

六月四日、愛媛県松野町立松野西小学校四年生二九名を対象に植物の種子について学習する森林教室を行いました。

まず、植物の種子が風や水、動物などの力を借りて移動していることや、そのために独特の形状をしていることなどを写真を使って説明しました。

その後、マツやカエデ、アルソミトラ（東南アジア産のウリ科の植物）などの風や翼を使って飛ぶ種子が、実際にどのように飛ぶかをマツやカエデの種子は風洞装置の上で、風を受けるのとクルクルと回転し、フワ

りと宙に浮き、まるでヘリコプターのように飛ぶ姿に、児童は驚いている様子でした。また、アルソミトラは、高いところから落とすだけで薄い翼を使って「スーッ」と滑空します。

最後はスチレンシートを使ってアルソミトラとラワン（フタバガキ）の種子の模型を作りました。

薄いスチレンシートに、種に見立てたコルクを張りあわせただけの簡単な構造にもかかわらず、グライダーのように飛ぶアルソミトラの模型もあれば、なかなか思うように飛んでくれない模型もあります。

まるで羽子板の羽根のようなラワンの種は、輪ゴムを使って高く飛ばすと、クルクルと回りながらゆっくりと降りてきます。児童たちは校庭でそれぞれが作った模型を飛ばし、

自然が作り出す不思議を感じながら何度も飛ばしていました。今回の森林教室が、児童の植物や自然に対する興味への入り口となってくれることを期待します。



ラワンの模型を飛ばす

木工クラフト教室
〈ふれあいセンター〉

六月九日、土佐清水市

立下ノ加江中学校二年生を対象に木工クラフト教室を開催しました。

今回の開催は、一昨年に当センターが開催した「森林環境サポート講座―森の楽（学）育―」に参加していた職員の方が、「ぜひうちの生徒にも作らせてやりたい。」との思いから要請があり、実施することとなったものです。

はじめに所長から、四万十川源流域の高知県黒尊・大道地域、愛媛県滑床山地域の国有林において、当センターが行っているニホンジカによる被害跡地の植生回復・森林再生やマツクイ

虫被害跡地の森林再生に取り組んでいることについて説明しました。生徒達はシカがミヤコザサを食べ尽くした現状を見て被害の酷さに驚いていました。

して、木の長所である軽くて丈夫なこと、加工しやすいこと、湿度や温度を調整すること、短所として、性質がすべて同じでないこと、シロアリなどの被害を受けやすいことなどについて勉強しました。

次に本日のメインである木工クラフトへと移り、くまの置物等を作りました。たくさん材料の中から自分イメージに合った木を選び、ノコギリで切ったり、ナタを使ったりして作業を進めました。

生徒の中には、ノコギリが上手く使えなかったり、バンドが上手くくっつかなかったりと悪戦苦闘している子もいましたが、先生に手伝ってもらい無事に完成させることができました。作り終えた生徒達からは、顔（くま）のバランスを考

えて材料を選ぶことや、ノ

コギリを上手に使うことが思った以上に難しかったとの感想がありました。世界に一つだけの置物を作り満足そうでした。



木工クラフト作りの様子

「やったー三本杭」
—高校生に森林環境教育—
〈ふれあいセンター〉

六月一〇日、高知県立四万十高校一年生一六名を対象に、高知県と愛媛県の県境にある八面山と滑床山一、二二六（通称、三本杭）へ森林環境教育を兼ねた登山を実施しました。

四万十高校では、例年、

自然環境コースの新生を対象に、鹿児島県屋久島で自然体験研修を実施しています。

今回は、そのための体力養成と自然環境学習をしたなどの学校の要望を受けて実施しました。

当日は、絶好の登山日和、生徒はこの日を楽しみにしていたとのことで、山の緑豊かな新鮮な空気を吸い込んで元気よく三班に別れて登山を開始しました。

登山道では、職員から樹木の名前や特徴、ニホンジカによる樹木の剥皮害についての説明を受けながら登って行きました。一部の生徒は、先生や当センター職員の励ましを受けながら、三〇分遅れでようやく滑床山（三本杭）山頂へ到着し、全員が揃ってから昼食を食べました。昼食後、当センターが実施しているシカ防

護ネットの設置や、ボランティア等によるミヤコザサの移植などによって、植生の回復が見られていることに、生徒達は実感し、特に、シカネットの資材運搬を人力で運んだ事に関心していました。

また、その他に当センターが実施している「大道マツ」の森林再生について触れ、九月に下刈りを実施するので多く参加をお願いしますと呼びかけると、ぜひ参加したいとの声が返ってきました。

最後に生徒代表から、「今回の登山を通じ、森林についていろいろな体験や学習ができました。自然再生も重要な取り組みであり大切さも理解出来ました。屋久島では、今日の体験を生かしたいと思います」との感想があり、ふれあいセンターも学校の要望に応えること

ができました。



ニホンジカ食害の説明

木材は加工しやすい？
〈ふれあいセンター〉

六月二五日、愛媛県松野町立松野西小学校四年生二九名を対象に木工教室を行いました。

まず、当センター職員が、木材は、軽量で丈夫な素材であることや、加工しやすいことなど、「木材の特徴」について、説明し、日本人は生活や風土に合わせて、さまざまに利用しているこ

とを学習しました。その後、サクラなどの枝を使った木工クラフトに挑戦しました。

児童たちは、のこぎりやクラフトナイフ、剪定ばさみなどを使って枝を輪切りにしたり、削ったりして、カブトムシやクワガタムシ、クマやブタなどの置物やストラップを作りました。

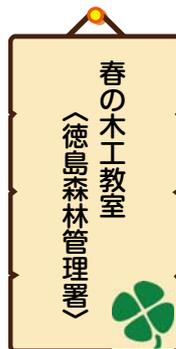
「木材は加工しやすい」といっても、初めてのこぎりやナイフを使う児童もあり、太い枝をのこぎりで輪切りにするのに四苦八苦している児童や、ナイフや彫刻刀で手を切ってしまう児童に、職員は、道具の使用方法の指導や手伝いに大忙しでした。

それでも、児童はそれぞれに作品を完成させ、世界でたった一つのオリジナル作品に満足した様子でした。



のこぎりでの輪切りに挑戦

この木工教室で、もの作りの難しさや楽しさ、自然の恵みやものを大切にするこころなど、様々なことを学んでくれたことと思います。



六月一二日に徳島市渭東児童館（児童二〇名）、六月一五日に東みよし町立絵堂小学校（児童四名）を対象に木工教室を開催しました。渭東児童館では、平成二一年度に民国連携による森林共同施業団地の協定を締結した徳島水源林整備事務所の職員にも協力いただきました。

地球温暖化と森林の関わりについての話をを行った後、「かえるのキーホルダー」を作りました。

材料は、除伐木の木片を利用したもので、目玉とキーホルダーをつけて完成させました。

桜の皮を切って作った小さなボタンとネクタイをボンドで貼り付ける作業には、

子供たちも集中して一生懸命に作り、良い思い出となりました。



かえるのキーホルダー作ったよ。

絵堂小学校では、四名で協力して一つの「時計とカレンダー」作りにチャレンジしました。

材料には間伐材を利用しているため、間伐の必要性や間伐材の利用についての話をした後、製作に取りかかりました。

時計部分を製作する組とカレンダー部分を製作する組に分かれ、それぞれが作ったものを組み合わせ、最後は木の実や除伐木を使っ

て飾り付けし、完成させました。

完成した「時計とカレンダー」は、当小学校の最後の行事となる一〇月一四日「海の学校」での交換学習会で瀬戸小学校へプレゼントするそうです。



私たちが作った「時計とカレンダー」です。



五月二五日、屋島国有林の「源平屋島の森」で、屋島東小学校一年生が、樹木への名札かけを行いました。「源平屋島の森」は、郷

土の森に親しみを持ってもらうことを目的に設置されているもので、地元自治会、屋島東小学校、ボランティア団体等の協力を得て、年三回の下草刈り作業を行っています。一年生による名札かけは、その一環として「源平屋島の森」に親しみをもってもらうために、毎年行っています。

当日は天気にも恵まれ、児童たちは元気に「源平屋島の森」にやってきました。最初に森林の大切さについての説明を受けた後、自分の名前やメッセージの書かれた札を、サクラやアベマキ、カエデ等思い思いの木にかけていました。これをきっかけとして、郷土の自然に関心を向けてほしいと思います。

また、五月三〇日には、同じ「源平屋島の森」で、ボランティア作業（下草刈



屋島東小学校一年生による名札かけ

り)が行われました。この日も晴天で、ぬけるような青空の下、地元自治会、屋島東小学校、ボランティア団体等から集まった、一五〇名余りが汗を流しました。作業は一時間半ほどで終了し、下草刈りによって、草やつるに覆われて、ほとんど見えなくなっていた植栽木も顔を出しました。

「源平屋島の森」の樹木が草本に負けず、大きく成長してほしいと思います。



愛媛森林管理署

宇和島森林事務所

首席森林官 竹倉 昌直

宇和島森林事務所は愛媛県南予の宇和島市にあり、宇和島市、鬼北町、西予市に所在する国有林と官行造林、約三、〇〇〇鈔を管理しています。

自然休養林に指定されており、近年は、この貴重なフィールドで活動したいといった国民の方々の要請にこたえて「遊々の森」や「ふれあいの森」を設定し、ボランティア団体や地元小学校等に活動の場を提供しています。



滑床山国有林の「雪輪の滝」

管内には、鬼ヶ城山系の高月山や滑床山(二本杭)、鬼ヶ城山、八面山等があり、山々や貴重な動植物が四季折々の変化を見せて登山者を楽しませていきます。

また、宇和島市の水瓶で

特に、滑床溪谷及び成川溪谷周辺は、各種保安林、足摺宇和海国立公園の特別地域、鳥獣保護区特別保護地区のほか、一部は滑床山林木遺伝資源保存林、滑床

ある須賀川ダム上流部の若山・八幡山団地は、水土保持全複層モデル林に設定し、旧藩造林地を中心に育成複層林施業を主たる施業方法としており、林地の保全機

能の高度発揮と併せて、林齢九〇年を越える上木は貴重な森林資源に成長しており、多くの方々が見学等に來られています。

当森林事務所は、一名の基幹作業職員が勤務しており、境界巡検等の測定業務や歩道整備、管内パトロー等々の保全管理業務、林道の維持修繕業務等を行っています。

また、間伐等の森林整備事業の増加に対応して、本署業務第二課より二名が駐在し販売・生産業務等を行っています。



八幡山国有林ヒノキ複層林

最近、特に森林・林業が注目されつつあり、多様なニーズに対応して、きめ細やかな森林の整備を図りつつ、地域や次世代の人々に希望を与えられる国有林の姿を議論しながら日々の業務に取り組んでいます。





四国山の日
11月11日は四国山の日です

第6回

森林の俳句コンテスト

作品募集

森林は、さまざまな働きがあり、私たちの生活と密接に関係しています。
森林の働きや木材の良さ、木を育てる喜びなどを題材として俳句を作ってみませんか。
小中学生のみなさん応募をお待ちしております。

- [主催] 四国森林管理局、森林の俳句コンテスト実行委員会
- [協賛] (社)国土緑化推進機構、(財)日本森林林業振興会高知支部
- [後援] 徳島県教育委員会、香川県教育委員会、愛媛県教育委員会
高知県教育委員会、徳島新聞社、四国新聞社、愛媛新聞社
高知新聞社

[募集期間] 平成22年6月24日から9月10日「当日消印有効」

[テーマ] 「森林・林業」

[部門] 小学生の部、中学生の部

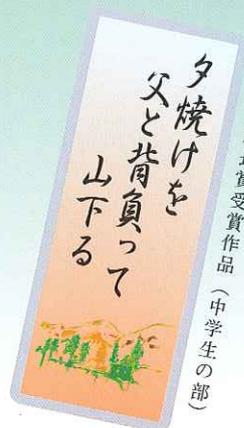
- [応募方法]
 - メール、または、官製はがき、FAXいずれかで応募してください。
 - 個人で応募される場合は、住所、氏名、学校名、学年、電話番号を標記。
 - 学校単位で応募される場合は、氏名、学校名、学年を明記してください。
 - 作品及び氏名には、「ふりがな」をつけてください。
 - 応募点数1人2句以内とします。
 - 応募作品は本人が創作した未発表のものに限ります。

- [応募先] 四国森林管理局「俳句コンテスト」係
 - はがき 【住所】〒780-8528高知市丸ノ内1-3-30
 - FAX 088-821-4834
 - Eメール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

- [選考・発表]
 - 選者
森 武司 (俳誌「球」主宰、高知県短詩型文学賞選考委員)
松林朝蒼 (「夏爐」主宰、俳人協会高知県支部長)
 - 入賞者には平成22年10月中旬に通知します。選外の通知はしません。

- [表彰]
 - 四国森林管理局長賞 各部門 1句 (賞状、記念品)
 - 優秀賞 各部門 4句 (賞状、記念品)
 - その他、秀逸、佳作を選出します。ただし、1人1賞とします。
 - 表彰式は、平成22年10月中旬 (愛媛県久万高原町予定)

- [その他] 応募作品を取り扱う権利は主催者側に帰属するものとします。
個人情報については厳重に管理し、利用目的以外には使用しません。



第5回局長賞受賞作品 (中学生の部)

問 合わせ 先



四国森林管理局総務課「俳句コンテスト」係
TEL 088-821-2000